

日本分析化学会第66年会

1 はじめに

日本分析化学会第66年会は、2017年9月9日から12日までの4日間、東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区）を会場として開催された。今年の東京は、直前まで天候不順であったが、幸いにして準備日である前日の9月8日から天気が回復し、無事に開催することができた。葛飾キャンパスは、アジア/CJK シンポジウム、および年会の口頭発表の会場である講義棟、懇親会の会場である学生食堂、ポスター発表・展示会・表彰式の会場である図書館棟が、徒歩数分の距離でキャンパス中央の通路で結ばれた、コンパクトな配置の会場であり、講義棟の1階から6階にある口頭発表の会場間も、エスカレーターで往き来できる。そのためか、講義棟2階に設置した学会本部には、ほとんどトラブルの

知らせがなかった。キャンパス中央の通路には、東京理科大学の大学院修了生であり、ノーベル医学・生理学賞受賞者の大村 智博士の栄誉を讃える赤いプレートが、科学史を彩った著名な研究者に混ざって設置されている。赤で強調されているので、気付かれた参加者も多かったのではないかと。講義棟とポスター会場を往来する際には、遠方に見えるスカイツリーの眺めも楽しんでいただけたのであれば、幸いである。

今回は、従来の支部の担当ではなく、本部が直接主催する年会として企画された。できるだけ、学内のメンバーにて準備や運営を行うようには配慮したつもりであるが、実際の運営に当たっては関東支部のみなさんに協力していただくこととなった。全面的な協力を約束してくださった、前関東支部長の金澤先生および現関東支部長の中込先生、そして関東支部の幹事の方々には、感謝



東京理科大学講義棟（主な講演会場）



図書館棟
(ポスター・展示会場)

表1 第66年会分類別講演及び聴講者数一覧表

分類	一般講演	テクノ 口頭	テクノ ポスター	一般 ポスター	若手 ポスター
01: 原子スペクトル分析	21		1	10	7
02: 分子スペクトル分析	17	1		6	18
03: レーザー分光分析	12(1)				3
04: X線分析・電子分光分析	11(1)			4	6
05: 放射化学分析					1
06: NMR, ESR, 磁気分析	3(3)			1	
07: 電気化学分析	9			1	5
08: センサー, センシングシステム	8			3	23
09: 熱分析	1			1	3
10: 有機微量分析	1			1	
11: 質量分析	6(1)			10	10
12: マイクロ分析系	10				6
13: フローインジェクション分析	7(6)				5
14: 液体クロマトグラフィー	3			12	9
15: ガスクロマトグラフィー	3			2	3
16: 電気泳動分析	6(1)				3
17: 溶媒抽出法, 固相抽出法, イオン交換系	12(2)	1		5	20
18: 分離・分析試薬の設計	9	1		2	6
19: 分析化学反応基礎論	7				4
20: データ処理理論	1				
21: 標準試料	1			1	
22: サンプリング, 前処理		1		3	3
23: 界面・微粒子分析	18		1	3	8
24: 宇宙・地球に関する分析化学	13			7	6
25: 地球環境関連分析	17			7	19
26: エネルギー関連	2				
27: 農業, 食品等分析	5			5	5
28: 無機・金属材料分析				1	1
29: 有機・高分子材料分析	10(2)			7	
30: 医薬品, 臨床分析	10(1)			9	1
31: バイオ分析・イメージング	30			1	28
32: その他	2(2)			3	6
合計	255(20)*	4	2	105	209

* 括弧内はシンポジウム枠での発表件数



受付付近の様子

してもしきれない。

2 講演

[プログラム担当：丹羽 修 (埼玉工大先端科研)，産業界シンポジウム担当：宮野 博 (味の素)，若手ポスター担当：加藤 大 (産総研)]

一般講演 (255 件)，テクノレビュー口頭 (4 件) が、東京理科大学葛飾キャンパス講義棟の 14 会場で行われた。研究懇談会は、2 日目の午前に 4 件、午後に 5 件、2 日目の午前に 5 件、午後に 3 件の合計 17 件が開催され、それぞれの世話人の企画による講演が行われた。また、ポスター発表は、2 日目と 3 日目に若手ポスター発表 209 件、一般ポスター発表 105 件、テクノレビューポスター 2 件が行われた。

3 シンポジウム

(1) Asia/CJK Symposium on Analytical Sciences 2017
(9 月 9 日, 10 日)

[chair：内山一美 (首都大院工)]

岡田哲男 日本分析化学会会長の Opening address に始まり、日欧米の著名な研究者による Future session (4 件) と分析化学の第一線で活躍中のアジア地域の研究者による、Plenary lecture (3 件) 及び Keynote lecture (27 件) が行われた。Oral presentation (28 件) と Poster presentation (48 件) も盛況で、発表の合間に設けられた coffee break の時間にも活発な議論が交わされていた。

(2) 特別公開シンポジウム

I. 「チュートリアルセッション」分析化学実験基本の“き” (その基本、おさえていますか?) (9 月 9 日午後)

[organizer：上原伸夫 (宇都宮大院工)]

小熊幸一 (千葉大)，林英男 (東京都立産技研)，上原伸夫 (宇都宮大工)，城野克広 (産総研)，上本道久 (明星大理工) の計 5 名の講演が行われた。

II. 産業界シンポジウム—企業における未来志向の最先端分析解析技術— (9 月 10 日午後)

[organizer：宮野 博 (味の素)]



講演会場風景



ポスター会場風景

上田輝久 (島津製作所)，青柳岳司 (産総研)，高橋雅行 (第一三共)，野呂純二 (日産アーク)，城代哲史 (JFE スチール)，梯 伸一郎 (三菱マテリアル) の計 6 名の講演が行われた。

(3) 特別シンポジウム

I. 「分析技術による企業内 R&D 推進と課題解決」 (9 月 10 日午前)

[organizer：宮野 博 (味の素)]

宮下陽介 (富士フイルム)，寺西文恵 (田辺三菱製薬)，加藤雄一 (豊田中研)，野呂純二 (日産アーク)，佐藤信之 (東レリサーチセンター)，高島良子 (日本電子)，波部太一 (花王)，宮野 博 (味の素) の計 8 名の発表者による講演が行われた。

II. 「定量分析法としての NMR の意義と応用」 (9 月 11 日午前)

齋藤 剛 (産総研)，江奈英里 (エーザイ分析研)，加藤 毅 (日本食品分析セ)，牧 秀志 (神戸大環境保全推進センター・神戸大院工)，齋藤直樹 (産総研)，杉本直樹 (国立衛研) の計 6 名の発表者による講演が行われた。

III. 「ナノ・マイクロ化学分析の最前線」 (9 月 9 日午後)

[organizer：渡慶次 学 (北大)]

北森武彦（東大院工），加地範匡（名大院工・JST さきがけ），栗田僚二（産総研），河野竜司（農工大工），石坂昌司（広島大院理），角田正也（シスメックス），水口仁志（徳島大院理工）の計7名の発表者による講演が行われた。

IV. 「流れ分析法とその関連技術の新展開」（9月10日午後）

[organizer：今任稔彦，石松亮一（九大院工）]

本水昌二（岡山大インキュベータ），長岡 勉（阪府大院工），樋口慶郎（高知大地域連携・小川商会），宮部寛志（立教大理），小林健太郎（群馬大院理工），中村栄子（横浜国大），今任稔彦（九大院工），足立雅典（愛知工大），作田成久（愛知工大），新宅浩聡（九大院工），石松亮一（九大院工）の計11名の発表者による講演が行われた。

V. 「分離メカニズムの創成～前処理と分離検出の新展開～」（9月10日）

[organizer：大平慎一（熊本大院先端科学）]

大平慎一（熊本大院先端），宝田 徹（理研），岡田哲男（東大理），森 勝伸（高知大教育研究部），井上嘉則（愛知工大），巴山 忠（福岡大薬），茶山建二（甲南大理工），志村清仁（福岡医大医），塚越一彦（同志社大学理工学研究科）の計9名の発表者による講演が行われた。

VI. 「分析化学をリードする若手研究者シンポジウム」（9月10日午後）

[organizer：加藤 大（産総研）]

長谷川和貴（東理大院基礎工），岡村浩之（原子力機構），南木 創（東大生研），鎌田智之（産総研），木下隆将（阪府大院工），福田武司（埼玉大），小澤智行（日産化学・関西大）の計7名の発表者による講演が行われた。

VII. 「センサIoTと分析化学の融合展開」（9月9日午後）

[organizer：三林浩二（医科歯科大）]

三林浩二（医科歯科大・行材研），中島 寛（NTT物性研），Citterio, Daniel（慶応大理工），時任静士（山形大有機エレ研究センター），伊藤寿浩（東大新領域），四反田 功（東理大理工），松浦祐司（東北大医工）の計7名の発表者による講演が行われた。

VIII. 「実試料に挑む電気分析化学」（9月9日午後）

[organizer：前田耕治（京都工繊大）]

井上（安田）久美（東大院環境），末吉健志（阪府大院工），中山茂吉（住友電工），小谷 明（東薬大薬），南 豪（東大生研），内山俊一（埼玉工大），森内隆代（阪工大工），青柳重夫（北斗電工）の計8名の発表者による講演が行われた。

IX. 「未来を育む暮らしの安全・安心と分析化学」（9月10日午前）

[organizer：梅村知也（東京薬科大）]

磯部友彦（国環研），高木麻衣（国環研），上島通浩（名古屋市大院医），吉永 淳（東洋大），村上道夫（福島県立医大），香山不二雄（自治医大）の計6名の発表者による講演が行われた。

X. 「細胞分析の新展開」（9月10日午後）

[organizer：佐藤守俊（東京大院総合文化）]

西澤精一（東北大院理），吉本敬太郎（東大院総文（広域・生命）），中西 淳（物材機構），佐藤守俊（東大院総合文化），佐藤香枝（日女大理），佐藤記一（群馬大院工）

（群馬大院理工）の計6名の発表者による講演が行われた。

XI. 「最先端分離化学とその応用」（9月10日午後）

[organizer：久保拓也，大塚浩二（京大院工）]

渡慶次 学（北大院工），加地範匡（名大院工・JST さきがけ），珠玖 仁（東北大院工），火原彰秀（東北大多元研），北川文彦（弘前大院理工），北川慎也（名工大院工），壹岐伸彦（東北大院環境），梅村知也（東薬大生命）の計8名の発表者による講演が行われた。

4 付設展示会，ランチョンセミナー，テクノロジーレビュー

図書館棟のポスター会場のすぐ脇にて，付設展示会が開催された。今回の機器展示に20社（22ブース），書籍販売1社，カタログ展示に3社の御協力を頂いた。本年会では，若手と一般のポスター発表および表彰式・受賞講演と同じ図書館棟のホワイエで開催したため，展示会場は多くの来場者で賑わっていた。

年会の2日目の昼に2件，3日目の昼に3件のランチョンセミナーに加え，両日に1件ずつJAIMA ジョイントセミナーが開催された。お弁当を食べながら各企業の最先端技術や製品に関するセミナーを聞くことができる大変有意義な企画であり，チケットが配布30分程度でなくなるほど，大変好評であった。本年会では，テク



展示会場



授賞式

ノレビュー講演として口頭発表4件、ポスター発表2件が行われた。

5 学会賞等授賞式、学会賞講演など

学会賞授賞式ならびに学会賞受賞講演は、東京理科大学葛飾キャンパスの図書館棟の大ホールで開催された。

中込理事の開会挨拶で式が始まり、岡田哲男日本分析化学会会長の挨拶のあと、名誉会員推戴者1名、学会賞3名、学会功労賞4名、奨励賞5名、技術功績賞2名、先端分析技術賞（JAIMA 機器開発賞8名、CERI 評価技術賞1名）、分析化学論文賞4名、有功賞45名にそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式の後、東京理科大学図書館前のさわやかな秋空の下で有功賞受賞者の記念撮影が行われた。その後15時00分より、今任稔彦氏、金澤秀子氏、丹羽修氏による学会賞受賞講演が行われた。技術功績賞の伊永隆史氏、渡部悦幸氏、奨励賞の川井隆之氏、富田竣介氏、南豪氏、安井隆雄氏、JAIMA 賞の倉内奈美氏、森田金市氏、CERI 賞の中村利廣氏、分析化学論文賞の北川慎也氏の受賞講演は、関連する一般講演会場で行われた。

6 懇親会

懇親会は、3日目の18時30分より葛飾キャンパス内の学食の2階にて開催された（参加者1290名）。今回は初日にアジア/CJK シンポジウムの懇親会も予定されていたため、ミキサーは実施しないこととした。司会進行は、津越敬寿（産総研）と西垣敦子（東邦大）が務めた。冒頭、マイクが充電されておらず、少しばたばたしたもののすぐに収まり、宮村一夫実行委員長（東理大理）の開会の辞に続く岡田哲男会長（東工大院理）の挨拶の後、会場校を代表して藤島昭東京理科大学学長と日本分析機器工業会の栗原権右衛門会長（日本電子社長）からご祝辞をいただいた。その後、古谷圭一東京理科大学名誉教授による乾杯のご発声のもと懇親会が開宴した。

会の中ほどでは、東京理科大学の舞踏研究部によるダンスが披露された。これは、実行委員長の研究室にたまたま今年度の全日本学生競技ダンス選手権ルンバ部門で



懇親会：古谷圭一名誉教授による乾杯のご発声



懇親会

優勝した学生がいたため、無理を言ってお願いしたものである。華やかな踊りによって、会場が大いに盛り上がった。その後、RSCポスター賞および学生ポスター賞の表彰式を行った。

会の終盤では、次年度開催予定の第78回分析化学討論会の中山雅晴実行委員長（山口大院創成科学）および分析化学会第67年会の末永智一実行委員長（東北大院環境科学）よりご説明をいただき、懇親会は閉会した。

7 若手ポスター賞

若手企画としては、若手ポスター賞の審査と表彰が行われた。若手ポスターは、2日目の午前に68件、2日目の午後に71件、3日目の午前に70件の計209件の発表が行われた。計36名の一般会員の審査員の厳正なる審査の結果、各セッションの上位3名をRSCポスター賞、次点の4名（同点の場合は5名）を若手ポスター賞に選出した。各賞の表彰式は、3日目夜の懇親会で行われ、懇親会に参加したRSCポスター賞の受賞者



RSC ポスター賞授賞式

には Philippa Hughes (RSC Analyst 誌編集長) から、若手ポスター賞および学生審査員特別賞の受賞者には年会実行委員長から、それぞれ賞状および副賞が授与された。RSC ポスター賞：弥永洋平 (九大院工), 河野聡史 (東工大), 吉田健太郎 (東理大), 天田圭介 (慶應大), 福井義春 (東工大院理), 長嶋萌子 (首都大学東京), 小林瑞季 (東理大理), 山本 翔 (金沢大院自然科学), 竹内理子 (東京薬大)。若手ポスター賞：原口はづき (東洋大院生命科学), 森岩友紀子 (東京薬大院薬), 福澤洋佑 (山口大), 山下修司 (東大院理), 藤崎省吾 (慶応大院), 松尾圭吾 (早稲田大), 工藤弘子 (慶應大院), 水田 翼 (阪府大院工), 横田優貴 (富山高専), 石木健吾 (阪府大院工), 宮川晃尚 (東工大理), 田邊貴昭 (東北大院理), 小山祐樹 (東理大)。

8 その他

第8回生涯分析談話会 [世話人：小熊幸一 (千葉大)] が2日目の午後で開催された。この談話会は、分析化学会員が退職後も学会に参加し、相互の交流と親睦をはかることを目的としており、今回は、高村喜代子氏 (東京薬科大学名誉教授) による講演と懇親会が行われた。

また、同じ2日の午後第11回女性研究者ネットワークセミナー [世話人：金澤秀子 (慶応大薬)] が行われた。蟻川芳子前学長・理事長 (日本女子大) を講師に迎え、女性会員のみならずダイバーシティの推進に関心のある男性会員も交えて情報交換が行われた。また、託児所には1件の利用者があった。

広報活動としては東京の本部事務局で保倉明子広報委員長 (東京電機大) を中心に、「展望とトピックス委員会」による記者会見と冊子「展望とトピックス」の配布を行った。その結果、会場に記者が取材に来られ、全国紙である日本経済新聞で記事として取り上げられた。

9 おわりに

2年前の、とある会議の折、当時会長であった鈴木孝

治先生 (慶応大工) から年会開催の可能性について打診があった。当初は慶応大での実施を計画していたが、日本化学会の年会を実施することが決まり、実施できなくなったとのこと。突然、ピンチヒッターとしての打順が回ってきた格好である。初めての本部開催の年会であることから、国際シンポジウムを軸にシンポジウムを多数募集して大がかりな年会にしようとの計画となり、会期を従来の年会よりも1日多い4日間にする、また、JASIS (旧分析機器展) との連携を取るため、会期をJASIS 終了の翌日からとすること、が決まった。当時、研究担当副会長であった丹羽 修副会長がプログラム委員長、国際化担当副会長であった内山一美副会長が国際シンポジウムの実行委員長を務めることとなった。その一方で、厳しい学会の財政状況の下での開催となったため、会期延長による支出増を踏まえた登録費の若干の値上げを理事会にお願いした。また経費節減を目的として懇親会場に学食を使うことも決めた。幸いにして、大学の理事会から格別の配慮をいただき、会場費がほとんどかからなかったため、財政的には事なきを得た。

理科大のメンバーによる献身的な運営によっても、支出が抑えられた。特に、会場となる葛飾キャンパスには分析化学会を活動の場としている研究室がほとんどなく、遠隔地での開催となったのを、葛飾キャンパスにある工学部機械学科の元祐昌廣先生、基礎工学部材料工学科の小副真人先生がそれぞれ、口頭発表会場 (講義棟) とポスター発表および展示会会場 (図書館棟) の運営を引き受けてくださったのは、大変心強く、またありがたかった。事前の準備のほとんどは野元が担当。他にも、前日の会場設営から撤収作業まで、中井 泉先生がアドバイザー、由井宏治先生が総務、東 達也先生が表彰式、国村伸祐先生が会計、阿部先生が会場、伴野先生が懇親会会場を担当してくれた。クロークおよび託児所は、実行委員長の研究室出身の友野和哲先生 (関東学院大) が責任者を引き受けてくれて、本当に助かった。

最後に、年会に参加された会員の皆様、ならびに展示に出展いただきました企業関係者の皆様、展示会およびランチョンセミナーの準備を担当していただいた明報社の皆様には心より御礼申し上げます。幸い、会期中は天気にも恵まれ、大きなトラブルもなく無事に年会を終えることができた。このことは、参加者の皆様のご理解と、長期にわたる準備と当日の運営等に携わっていただきました日本分析化学会関東支部の皆様、本部事務局の皆様、ならびにアルバイトの学生の皆さまのご尽力のおかげです。また会場となった東京理科大学の理事会および葛飾キャンパスの関係者の皆さまにも、多大なるご支援いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

[東京理科大学理学部 宮村一夫, 野元邦治]